

都内中小企業の事業資金に関する調査

(平成 27 年 5 月調査)

《 概要 》

- 主な取引金融機関は、「都市銀行」が54.8%で最も高く、次いで「信用金庫」が32.4%となっており、この2つで約9割を占める。
- 主な取引金融機関の借入や返済に対する姿勢をDI値（「緩やか」－「厳しい」）でみると、34.5となった。前回に引き続きDI値が上昇しており、借入や返済に対する姿勢は緩和傾向にある。
- 主な取引金融機関からの借入金利の傾向は、「変化なし」が70.6%と7割を占めて最も高く、安定した状況が続いている。
- 最近の借入金利は、「2%未満」が48.1%で最も高く、約半数を占めている。次いで「2%台」が35.6%となった。前回と比べると「2%台」がわずかに減少し、「3%台」がわずかに増加した。
- 今後3か月間の資金需要をDI値（「増加する」－「減少する」）でみると、11.6となった。DI値はプラス水準ながら、前々回、前回に引き続き低下しており、資金需要の増加傾向は弱まっている。
- 金融機関からの借入金総額の状況は、前年同時期と比べて「減少した」と、「変化なし」がともに約4割を占めた。今後1年以内に現在額を上回ることがあるかについては、「ない」が53.5%で過半数を占めた。

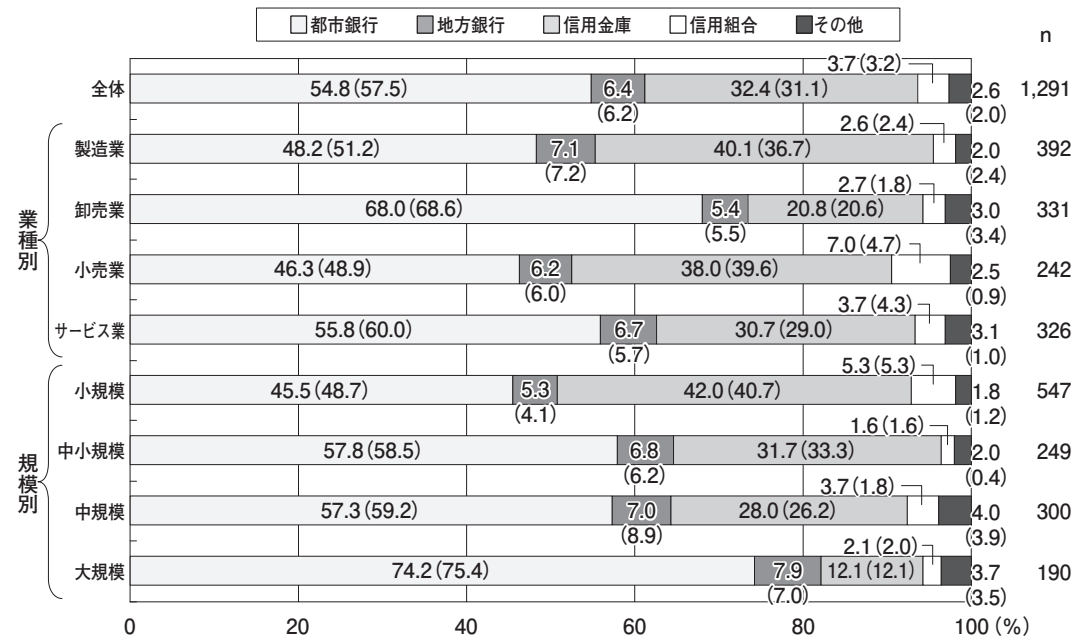
1 主な取引金融機関

主な取引金融機関は、全体では「都市銀行」が54.8%（前回57.5%）で最も高く、次いで「信用金庫」が32.4%（同31.1%）となっており、この2つで約9割を占める。このほか、「地方銀行」が6.4%（同6.2%）、「信用組合」が3.7%（同3.2%）となった。

業種別にみると、全業種で「都市銀行」が最も高く、特に卸売業では68.0%と7割近くに達している。一方、製造業と小売業では、第2位の「信用金庫」が約4割を占め、「都市銀行」との差は小さい。また、小売業では「信用組合」が7.0%と他の業種に比べてやや高くなっている。

規模別にみると、小規模では「都市銀行」が45.5%、「信用金庫」が42.0%で拮抗している。規模が大きくなるほど「都市銀行」が高く、「信用金庫」が低くなる傾向がみられ、大規模では「都市銀行」が74.2%と4分の3を占めている。

図表 1 主な取引金融機関



注) 無回答を除き集計。規模不明を除く。()内は前回値(平成26年11月調査)。

2 借入や返済に対する姿勢

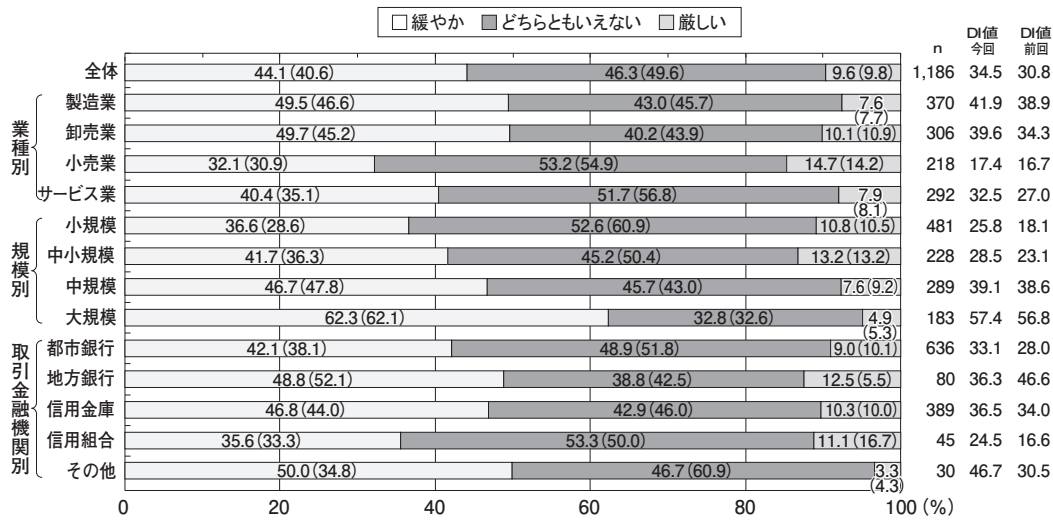
主な取引金融機関の借入や返済に対する姿勢をDI値（「緩やか」－「厳しい」）でみると、全体では34.5（前回30.8）となった。前回に引き続きDI値が上昇しており、借入や返済に対する姿勢は緩和傾向にある。

業種別にみると、全業種でDI値が上昇した。特に、サービス業32.5（同27.0）と卸売業39.6（同34.3）ではDI値が5ポイント以上上昇した。小売業17.4（同16.7）も0.7ポイントとわずかながら上昇したが、「緩やか」が約3割に止まるなど他の業種に比べるとやや厳しい状況である。

規模別にみても、全規模でDI値が上昇した。特に、小規模25.8（同18.1）と中小規模28.5（同23.1）ではともに5ポイント以上DI値が上昇し、中規模や大規模との差を詰めた。

取引金融機関別にみると、回答企業の取引割合が高い都市銀行が33.1（同28.0）と5.1ポイント上昇したほか、信用金庫36.5（同34.0）も上昇し、ともに緩和傾向にある。一方、地方銀行36.3（同46.6）のみDI値が低下した。

図表2 取引金融機関の借入や返済に対する姿勢



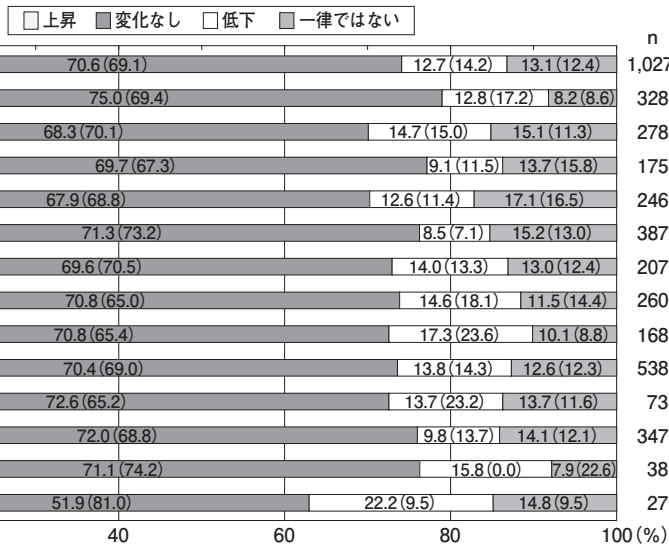
注) 無回答を除き集計。規模・取引金融機関不明を除く。()内は前回値(平成26年11月調査)。

3 主な取引金融機関からの借入金利

(1) 金利傾向

主な取引金融機関からの借入金利の傾向は、全体では「変化なし」が70.6% (前回69.1%) と7割を占めて最も高く、安定した状況が続いている。また、「低下」が12.7% (同14.2%) で、「上昇」の3.6% (同4.2%) を上回っている。

図表3 金利傾向



注) 無回答を除き集計。規模・取引金融機関不明を除く。()内は前回値(平成26年11月調査)。

(2) 金利水準

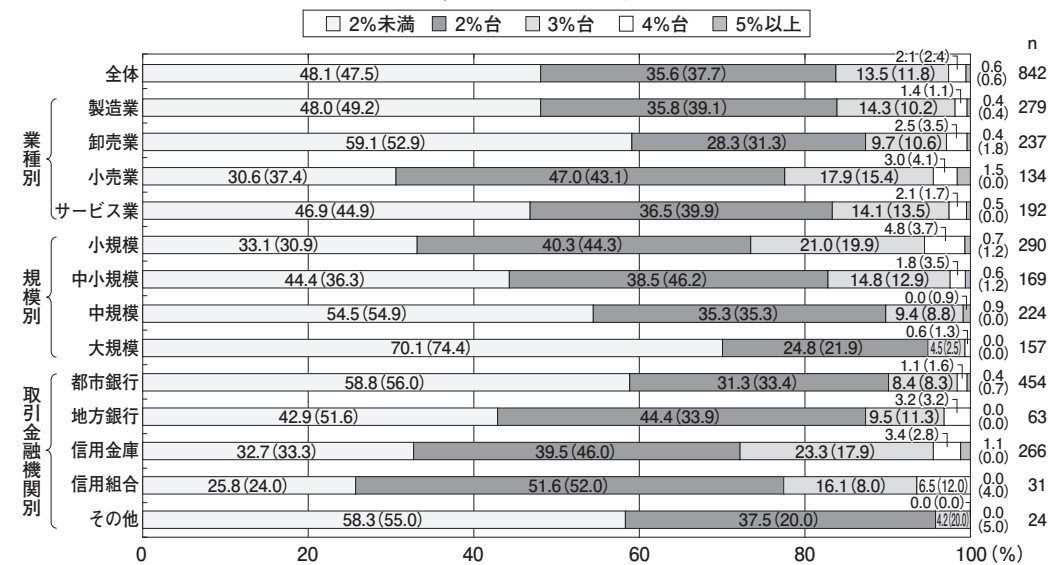
最近の借入金利は、「2%未満」が48.1% (前回47.5%) と最も高く、約半数を占めている。次いで「2%台」が35.6% (同37.7%) となった。前回と比べると「2%台」がわずかに減少し、「3%台」がわずかに増加した。

業種別にみると、小売業では「2%未満」が30.6% (同37.4%) と前回より減少し、金利水準は高めに推移した。一方、卸売業では「2%未満」が59.1% (同52.9%) と約6割に達し、他の業種に比べて一段と金利水準が低くなっている。

規模別にみると、規模が大きくなるほど「2%未満」が高くなっているが、小規模と中小規模では「2%未満」が前回より増加し、中規模や大規模との差を詰めた。

取引金融機関別にみると、都市銀行では「2%未満」が最も高く、約6割を占めている。一方、信用金庫では「2%台」が39.5%で「2%未満」の32.7%を上回っている。

図表4 金利水準



注) 無回答を除き集計。規模・取引金融機関不明を除く。()内は前回値(平成26年11月調査)。

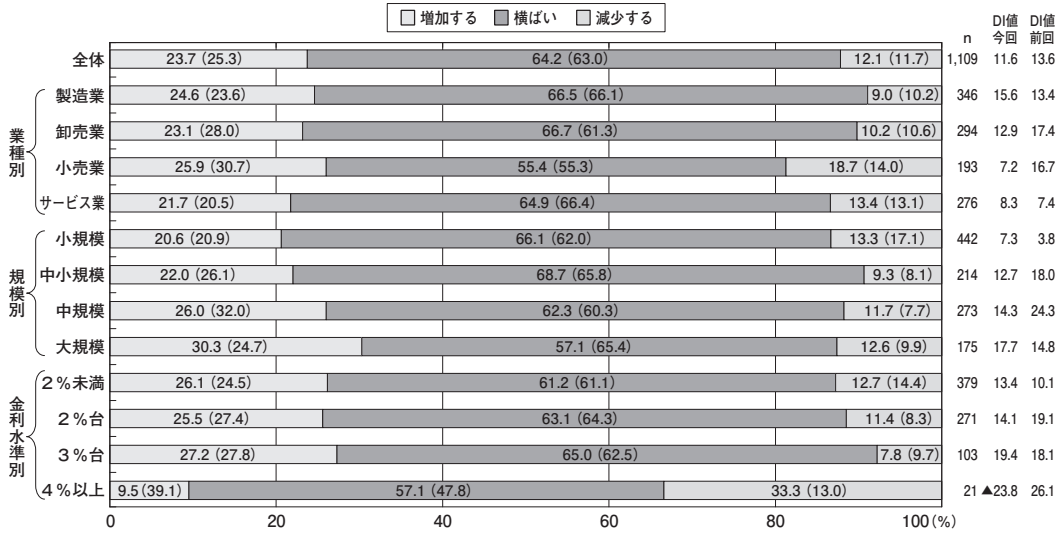
4 今後3か月間の資金需要

今後3か月間の資金需要をDI値(「増加する」-「減少する」)で見ると、全体では11.6 (前回13.6) となった。DI値はプラス水準ながら、前々回、前回に引き続き低下しており、資金需要の増加傾向は弱まっている。

業種別にみると、DI値は小売業7.2 (同16.7) で9.5ポイントと大きく低下した。一方、製造業15.6 (同13.4) とサービス業8.3 (同7.4) はわずかに上昇した。

規模別にみると、中規模14.3 (同24.3) で10.0ポイントと大きく低下した。

図表5 資金需要（今後3か月間）

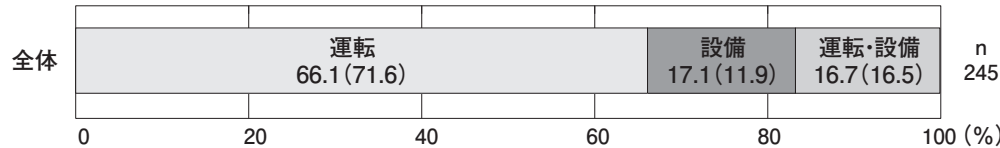


注) 無回答を除き集計。規模・金利水準不明を除く。金利水準別の4%以上は合算。()内は前回値(平成26年11月調査)。

(1) 資金使途

資金需要増加分の資金使途をみると、「運転」が66.1%（前回71.6%）と最も高く、次いで「設備」が17.1%（同11.9%）、「運転・設備」が16.7%（同16.5%）となった。前回に比べ「運転」が5.5ポイント減少し、「設備」が5.2ポイント増加した。

図表6 資金使途

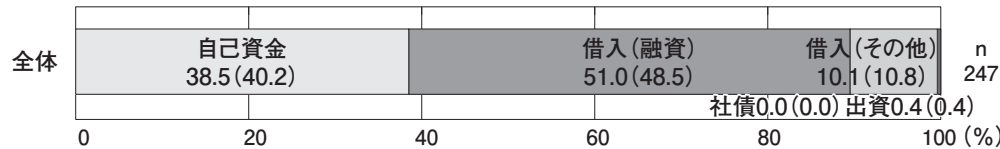


注) 資金需要が増加する企業につき、無回答を除き集計。()内は前回値(平成26年11月調査)。

(2) 調達手段

資金需要増加分の調達手段をみると、「借入（融資）」が51.0%（前回48.5%）と最も高く過半数を占めた。次いで「自己資金」が38.5%（同40.2%）となった。前回に比べ「借入（融資）」が2.5ポイント増加し、「自己資金」は1.7ポイント減少した。

図表7 調達手段



注) 資金需要が増加する企業につき、無回答を除き集計。()内は前回値(平成26年11月調査)。

5 金融機関からの借入金総額の状況

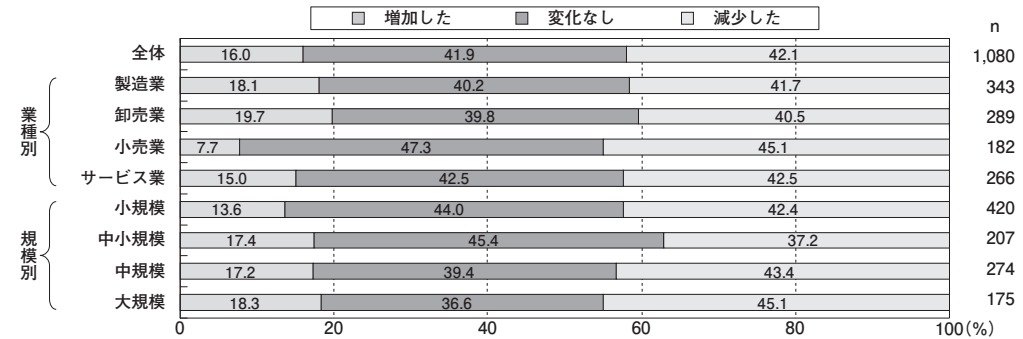
(1) 借入金総額（前年同時期比）

前年同時期と比べた現在の金融機関からの借入金総額の状況は、全体では「減少した」が42.1%、「変化なし」が41.9%とともに約4割を占めた。借入金総額が「増加した」のは16.0%で2割以下となっている。

業種別にみると、「増加した」は卸売業で19.7%、製造業で18.1%とやや高い。一方、小売業では「変化なし」が半数近くを占め、「増加した」は1割に満たない。

規模別にみると、大規模では「変化なし」が4割を下回り、「減少した」が45.1%、「増加した」が18.3%と他の規模に比べて高くなっている。

図表8 金融機関からの借入金総額（前年同時期比）



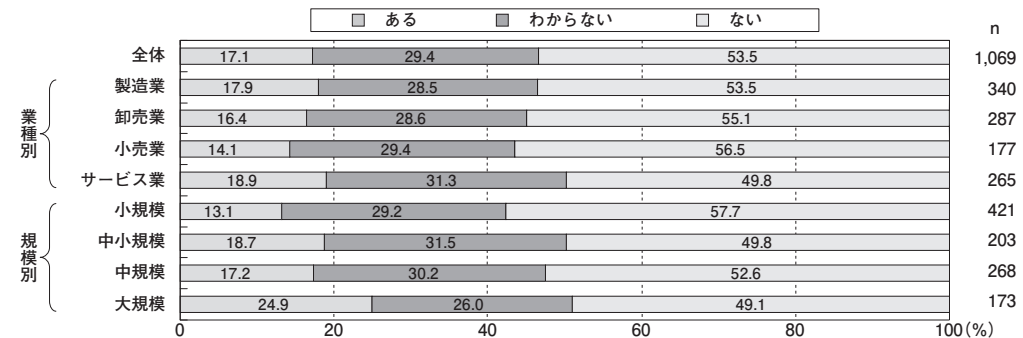
注) 無回答を除き集計。規模不明を除く。

(2) 借入金総額の増加見込み（今後1年内）

今後1年内に金融機関からの借入金総額が現在額を上回ることがあるかについては、「ない」が53.5%で過半数を占めた。「ある」は17.1%となっている。

業種別にみると、サービス業では「ある」が18.9%とやや高くなっている。規模別にみると、大規模では「ある」が24.9%と約4分の1を占めた。

図表9 借入金総額の増加見込み（今後1年内）



注) 無回答を除き集計。規模不明を除く。